山口県病院協会会報

²⁰¹⁴新年号 No.42

- ●発行日 平成26年1月1日 ●発行所 社団法人山口県病院協会
 - ●発行所 在団法人山口県病院協会 〒753-0814 山口市吉敷下東三丁目1番1号
- ●電話 083-923-3682
- ●FAX 083-923-3683
- ●発行人 木下 毅
- ●印刷所 大村印刷株式会社
- ●メールアドレス info@yha.or.jp
- ホームページ http://www.yha.or.jp



年頭のご挨拶

会長 木下 毅

あけましておめでとうございます。

今年もいろいろ変化のある年になりそうです。よろしくお願い致します。

アベノミクスで景気が良くなっているといわれています。一方、財政制度等審議会(吉川洋会長・東京大学院教授)は社会保障費の増加を防ぐために"診療報酬の

マイナス改正"をと言っています。社会保障費を捻出するために消費税を上げると国は説明しているのに、一体どうなっているのでしょう。業種別にみると医療・介護が一番地域経済に貢献しているというデータが出されました。他産業では円安で利益が上がりそれを社員の給与に振向け景気の向上にしようとしていますが、一番地域経済に貢献している医療関係者の給与を上げようという方向になっていないのはおかしいです。最近の報道では医師の所得が上がっているので診療報酬を上げる必要はないと主張しています。医師の給料よりも、多くの職員に支払われている給与の額の方が圧倒的に多いです。医療・介護は多くの職種にささえられている事をわすれている様です。また国は物価の2%上昇を目指していますが、これも医療機関の各種仕入れに影響があります。

いま病床区分をどうするかで医政局や保険局を中心に話がされていますが、今後の診療報酬改正までには結論は出そうにありません。当面は報告制度になりそうですが、その結果がどう利用されるか不安です。最近になって急性期の病床を減らすために診療報酬で誘導する方向が示されました。病床の在り方は診療報酬で誘導するのではなく政策で決めるべきという議論はどうなっているのでしょうか。

地域によって医療ニーズや病床の整備状況も違うはずです。全国一律の対応はできないはずです。山口県でも山陽・山陰での医療格差が問題になっています。地域の広さや人口の問題もありすぐには解決しそうにありません。最近、老年病学会が高齢者の定義を65歳から70歳に変えてはどうかと提言しています。日本で高齢者が65歳以上と決まったのは1965年の国勢調査からです。それからは50年近くもたっており平均寿命も約12歳延びています。そろそろ真剣に考えてもいいのではないかと思います。そうなれば70歳まで何らかの形で働かなければなりません。それには肉体的にも精神的にも安定していなければなりません。又、生活に張りが出てうまく行くかも知れません。病院経営も経済情勢や国際的な動きも見ながら経営してゆかなければならない時代になって行きそうです。

CONTENTS (目次)

山口県病院協会長挨拶		1ページ
山口大学医学部長挨拶		2ページ
	······ 4 ~	
	····· 6 ~	
平成25年度臨時総会		9ページ
		-
事務長部会コーナー		10ページ
お知らせコーナー		10ページ

年頭所感 ―教育における医学部・病院連携―



国立大学法人 山口大学 大学院医学系研究科長 医学部長

坂井田 功

新春を迎え、慎んで新年のお慶びを申し上げます。皆様にとりまして明るい話題で満 ちた年となればと願っております。

さて、現在の社会状況、経済状況は、大学、特に地方大学の医学部にとりましては厳しいといわざるをえないようです。医学部には、教育、研究、診療という基本的な役割がありますが、TPPへの加盟交渉といった社会情勢や政府の政策に大きく影響されることも事実です。平成16年の卒後臨床研修制度の変化は、その最たるものです。その社会的影響は皆様もご存知のとおりです。医師不足の話題(正確には医師の偏在)は、地方では何処に行ってもついてまいります。山口大学医学部の卒業生にできるだけ多く山口県で活躍していただきたいというのが、大学関係者の願いであり、県民の皆様の期待でもあります。そのためには、先ずは卒業生の多くに山口県内で研修していただくことが必要です。残念ながら現状はそのようにはなっておりません。医学部としましても、種々努力を続けておりますが、県内の医師が大幅に増加するといった結果には至っておりま

せん。依然として厳しい現実が続いており、山口大学に限らず、地方大学の医学部や、医科大学が同じ問題で悩んでおります。

医学教育は、文部科学省が定めた「医学教育モデル・コア・カリキュラム」というガイドラインに沿って実施することが求められています。医学教育の国際的標準化・国際認証という課題も浮上しており、大幅に臨床実習の時間を増やし、10年後までには、提供する医学教育の質が水準に達しているという第三者機関による認定を受けなければなりません。山口大学医学部では、それにも迅速に対応するための準備を進めております。これからの医学教育は医学部と市中病院(教育関連病院)とが連携して実施することが不可避となります。山口県病院協会の皆様には、より一層のご協力、ご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

もう一つの話題は、研究者を目指す医学部卒業者が激減しており、大きな社会問題となっていることです。この状態が続きますと、基礎医学で研究し、教育を担う医師が枯渇してしまいます。いわゆる研究医減少の問題です。これに対応するために、高度学術医育成コースを設置して研究指導を行い、海外への派遣も文部科学省の支援事業として実施しております。

それと、学位よりも専門医志向が強いことです。専門医制度も、認定は学会だけではなく第三者機関を入れてますます厳しくなりそうです。しかし、研究マインドを持ちながら、専門医になるということは、長い目で見れば日本の医学・医療の質の維持には不可欠ではないかと考えております。このような考えを、少なくとも山口大学医学部卒業生には、少しでも浸透させていきたいと思っております。

末筆となりましたが、山口県病院協会のご発展と会員の皆様のご健勝を祈念して年頭のご挨拶とさせていただきます。



協会役員コーナー

新年のご挨拶



財団法人 防府消化器病センター 防府胃腸病院

理事長 三浦 修

新年明けましておめでとうございます。毎年、年の初めに感じることは一年間という時間を、歳を重ねるごとに短く感じるようになってきたということです。

振り返っても確固たる実績や、胸を張って公言できる業績を残せないまま、時間に追いかけられてこの一年を過ごしてきたような気がします。

第2期山口県がん対策推進計画が昨年3月に策定されました。分野別施策の「がん医療の充実」の中で、「がん登録」はその根幹を支える大事な事業ですが、いろいろな問題、 課題を抱えながら進行している状態です。

そもそもがん登録事業の対象としては、診療した全ての患者(上皮内癌を含む)とあります。すなわち、消化器系で言うと内視鏡的切除の対象となった早期胃がん、早期大腸がんをすべて拾い上げるというシステムであるべきです。しかし、この患者さん達のほとんどは、おそらくがんの原病で亡くなられることはないでしょう。市中の中小病院あるいはクリニックでも内視鏡的切除術が積極的に行われている時代です。現状のがん登録システムの中で、どれだけ内視鏡的治療で完治出来ている早期の患者さんたちがい

るか、なかなか把握できていないのが現状です。おそらく、多くの早期消化器がんの患者さんは、統計上の母数 に上ることもなく、消え去っていく運命にあるのかも知れません。

山口県が、がん登録事業を生きた事業として継続していくのであれば、生死には直接関わらないであろう、これらの早期のがん患者さんをしっかり把握するシステムを構築していく必要があります。

がん診療連携拠点病院などは、院内がん登録としての登録システムがすでに構築されており、また、その他の 患者さんに対しては、地域がん登録としての登録システムがあります。この、登録システムをもっと簡便に、各 病院、クリニックの端末パソコンで入力できるソフトの開発、普及が強く望まれます。

新年を迎えての雑感



医療法人 愛命会 大田病院 理事長 吉田 延

新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

アベノミクス効果で日本経済は着実に回復基調にあり、明るい見通しがあるものの、医療をとりまく環境は、国内的には少子高齢化における社会保障給付費の増大、消費税率アップ、国際的にはTPP問題など厳しい状態が続いています。前回の診療報酬改定では大病院は収益が改善する一方で中小病院は厳しい状態が続いています。消費税について特筆すると、本来医療における消費税は最終消費者=患者が負担すべきものであるが、命に係ることに関して消費税はなじまないとの政策的配慮から保険診療による医療費については非課税とされ、医薬品、医療機材、水道光熱費の諸経費等々の消費税分は患者に転嫁することができず、事業者である医療機関が負担を余儀なくされてきました。消費税3%アップの8%が閣議決定されたことで基本診療料・調剤基本料に消費税対応分を上乗せするなど全ての医療機関等が上乗せ点数を算定できるようにするなど手当方法を検討しているようですが、次期診療報酬改定で実現しなければ、それ以降の診療報酬

改定では到底不可能、更なる負担が生じると思われます。いずれにしろ診療報酬がどういう結果になっても国の 方針・方向性を見極めながら危機感を持ち、意識を変え、無駄を省き、柔軟に対応していく力を病院の経営者は もちろん職員にも求められると思います。

病院スタッフコーナー

安心・安全な療養環境づくり



湯野温泉病院
看護師長 阿武 禮子

新年明けましておめでとうございます。当院は、161床の医療療養型病院です。入院 患者様は高齢化が増し、一般病院からの入院は、重症度も高く、認知症の患者様も重症 化しています。看護、介護にはより高い知識と技術が要求されるようになりました。

また、院内感染予防や医療安全に関しての対策が重要になり、スタッフ全員に研修を重ね、情報の共有を図り、患者様に安心・安全を提供していかなければなりません。

当院は湯野温泉郷の中にあり、良質な天然温泉を使用しています。関節拘縮のある患者様も多く入浴介助は重労働ですが、患者様は入浴は楽しみの1つのようです。

また、夏には恒例の行事として、地域の保存会の方をお招きし、併設の老人保健施設 と共同の納涼会を開催しています。車椅子の搬送は大変ですが、スタッフのゆかた姿や、 盆踊りを見たりする、患者様の目の輝きや笑顔を見ることができる、良い機会となって います。

個々の患者様に合った、質の高いケアを提供するためには、他職種との連携と情報の共有ができるカンファレンスは、とても有効です。生活の質を高め、安心で安全な療養環境が提供できるように、努力したいと思います。 私自身は、看護部理念である「やさしさと思いやりの心で、看護、介護を提供し、患者様の安全と安心、信頼と満足度を高める」のもとに頑張りたいと思います。

新しい年を迎え、山口県病院協会に所属されておられる皆様と共に、これからも安全な療養環境整備に邁進して行ければと思っています。

医薬品に関わる事故から守る薬剤師を目指して



明けましておめでとうございます。

山口平成病院は、地域における急性期医療の後方支援として、慢性期医療の充実化や 在宅療養支援を行なっている病院です。当院では、患者様中心のチーム医療を推進して より質の高い医療と福祉を提供するために、多職種との連携強化を推進しています。

当院では、医療従事者のすべてが個々の役割・責任を担い、適正な医療に必要な情報を共有化し、適正な医療を患者様の納得と同意の上で提供するため、医療適正化委員会、診療適正化委員会、患者サポートチーム、感染対策チームなどの複数のチームを組み、チーム間で連携し、情報の共有化を通じて、より質の高い医療と福祉を提供するように努めています。

その一員である私、薬剤師は、医薬品に関わる回避可能なあらゆる事故から守るという役割と責任を担って活動しています。たとえば、処方ミス、調剤過誤、投薬ミス、医

療従事者間のコミュケーション不足、医薬品の不適正使用や患者様に害を与える原因あるいは誘因となり得るものなどの医薬品に関わる事故から守ることです。これらの医薬品に関わる事故がなく、患者様の笑顔に繋がる医療を進めて行きたいと考えております。

今後も日々業務に励み、慢性期医療と在宅療養支援の一端を担うともに、薬剤師として、医薬品に関わる事故から守ることができる環境づくりに努めていきたいと思います。

本年も何卒宜しくお願いいたします。

病院スタッフコーナー

地域に愛される病院を目指して



下関市立豊浦病院 副看護部長

石津美智子

新年明けましておめでとうございます。

当院は、山口県の最西端に位置する総合病院であり、主に下関の北西部である北浦地区の地域医療を担い、地域の医療・保健・福祉の要となっています。

十年余り前より看護部では、地域の皆様に愛される病院を目標に、「目指せ、接遇日本一」の旗印を掲げて活動を始めました。今ではこの活動は各部署に波及し、病院全体の取り組みとなっています。月に1回多職種で構成される接遇パトロール班が、「身だしなみ」「言葉遣い」「環境」等をチェックして回ります。患者様のみならず、院内で出会う人全てに、笑顔で挨拶をし、常にウェルカムの姿勢で接することを心がけています。そして、地域の皆様の意見に耳を傾け、組織全体への改善改革につなげ、質の高い医療を提供できるよう努力しています。

また、一昨年より始めた「健康出前講座」では、73項目の演題の中から、依頼のあったものについて、医師、看護師、理学療法士等専門職が、実際に幼稚園、中学校、地域の集まり等に出向いて講演を行っています。「生活習慣病」「BLS」「家庭でできる感染対策」「子どもの急病の対処法」等、専門的知識と技術に基づいた講演は、地域の皆様に大変好評を博し、「今年もお願いします。」と再度依頼されることも珍しくありません。

これからも、地域の皆様の健康を多方面から支援し、地域に愛される病院を目指して活動していきたいと思います。

精神科管理栄養士として



医療法人 和同会 片倉病院 管理栄養士

村田みやび

新年明けましておめでとうございます。

当院は昭和39年に開設し、今年で創立50周年を迎えます。病床数229床で、精神科・神経科・歯科があり、併設施設として精神科デイケア・デイナイトケア、地域移行型ホーム・グループホームがあります。

「心の豊かさに溢れた地域を創造する」を基本理念とし、常に患者様の立場に立って考え、行動し、入院治療レベルの向上に繋がるよう、日々努力しています。

患者様からはいつも沢山のご意見を頂き、本当に食事を楽しみにされているのが伝わります。少しでも喜んで頂けるように、調理スタッフとともに業務に励んでいます。行事食はもちろんですが、七夕とクリスマスには「しあわせ人参」というイベントを行っております。星型やツリー型にくり抜いた人参が食事の中に添えられていたら当たりとし、当選者の方にはしあわせ証明書等を贈呈して、大変喜んで頂いています。

当院は高齢化が進み、嚥下困難な患者様が増えてきました。誤嚥を防ぐためにも患者様の状態に合った食事を提供していくことが課題であり、他職種とも協力して患者様のQOLを高めていくよう考えていかなければなりません。また、低栄養や褥瘡への早期対応をし、栄養改善、治癒に努めています。

今後も患者様とのふれあいを大切にし、より楽しんで、より喜んで頂けるように努力していきたいと思います。

研修会報告

平成25年度 中堅看護師研修会

平成25年9月13日(金)、山口県セミナーパーク講堂において中堅看護師研修会が開催され、161名の参加があった。

研修会のテーマ・講師は以下のとおり。

【研修会】

テーマ 「患者さんにも職員にも優しい病院づくり」 ~看護現場にトヨタ式「カイゼン」を導入して~

講 師 宇部興産株式会社中央病院 看護部長 山本多賀子 氏 テーマ 「チーム医療における看護師の役割」 講 師 綜合病院山口赤十字病院 病院長 名西史夫 氏

研修では、山本講師は、看護現場にトヨタ式「カイゼン」を導入して、患者さんにも職員にも優しい病院づくりにつながった。「カイゼン」活動を行っていくうえでの中堅看護師への期待について、以下の内容を中心に講演された。

- ① 医療環境の変化・急性期病院の現況
- ② トヨタ式改善と当院への導入について
- ③ 現場のムリ・ムダ・ムラの発見
- ④ 「カイゼン」活動の原点である病棟での指導及び改善事例
- ⑤ 『まず、やってみよう。やってみてから考えよう』

名西講師は、現代の医療においてチーム医療は非常に大切なものになっており、よいチーム医療を行うための中堅看護師の役割について、以下の内容を中心に講演された。

- (1) 医療の質の向上とチーム医療について
- ② チーム医療を行うために欠かせないこと
- ③ チーム医療の要となる看護師に求められるもの
- ④ 看護師のキャリア形成について
- ⑤ 看護師に必要な能力について
- 参加者は講師の話に熱心に耳を傾けていた。



山本多賀子氏



名西史夫氏



宇部興産株式会社 中央病院 副主任看護師

柳 誠一

中堅看護師研修会に参加して

2011年の高齢化率が23.3%となり超高齢化社会は進んでいる。そして、現在2025年問題が取り上げられている。2025年には、団塊の世代が後期高齢者に達し、高齢者人口は約3500万人となり、高齢化率は30%に達すると推計されている。そのため、医療費や社会保障費の増加が問題となり、また、高齢者を介護する施設や人材も不足していく状況の中で、何とかしていかなければならないのである。医療や看護も例外ではなく、少ないお金、物、人を合理的に活用しながら乗り越えていくしかない。とするなら、今こそイノベーションを必要とするのだと学んだ。

「ムリ、ムダ、ムラ」をなくすトヨタ式「カイゼン」を看護現場に導入することは、カイゼンによって削減した時間をベッドサイドへ、また管理者は部下にムダな作業をさせていないかを点検することで、患者にも職員にも優しい「カイゼン」であるというところに意義があるのだと学んだ。「まずは、やってみよう。やってみてから考えよう」この言葉は、留まって考えてばかりはおれない時代の言葉だと捉えた。中堅看護師として頑張って「カイゼン」

を行おうと思っている。医療・看護の質向上にはチームでの活動が不可欠である。各専門職が共通の目的をもって それぞれの専門性を最大限に発揮し、職種・職域を超えて連携・協働する事が重要であることを名西先生のご講演 から学んだ。特に最後に言われた「チーム医療は千手観音のようである。その手一つ一つにそれぞれ違うものを持 っている。それぞれが最大限の力を発揮する事が大切である」という言葉は印象的であった。人を対象とした医療 の現場では、合理的なカイゼンは個々の患者への千手観音の手に通じるものでなければならないと感じた。

研修会報告

平成25年度 病院看護師長研修会

平成25年11月29日(金)、山口県セミナーパーク講堂において、看護師 長研修会が開催され、187名の参加があった。

研修会のテーマ・講師は以下のとおり。

【研修会】

テーマ 「看護師長のマネジメント」 ~変化をおこす看護管理~

講 師 光市立光総合病院

看護部長 松本はる美 氏

テーマ 「勤務表作成のポイントと教育」

講師 九州大学大学院医学研究院保健学部門看護学分野 准教授

日本看護協会「地域へのWLB普及推進委員会」委員長 認定看護管理者 原田博子 氏

研修では、松本講師は、今までに体験してきた出来事や経験を踏まえて、「看護師長の役割、仕事」「マネジメントの役割、目的」「看護師長として心がけてきたこと」「仕事をするうえで大切にしていること」等について看護師長がマネジメントしていくうえでのポイントを講演された。

原田講師は、「今、なぜWLB(ワーク・ライフ・バランス)が必要なのか」について解説されたのち、「看護管理者にとっての負担」「看護師に必要な勤務表作成上の教育」「看護管理者としてのライフ」について事例を上げながら熱気に満ちた講演をされた。

参加者は身近な問題の講演に真剣な眼差しで受講していた。



松本はる美氏



原田博子氏



研修会風景



光市立光総合病院 副看護師長

山本 殊未

病院看護師長研修会に参加して

平成25年11月29日、病院看護師長研修会において、松本はる美先生、原田博子先生の講義を受けさせて頂いた。

松本先生による『看護師長のマネジメント〜変化をおこす看護管理〜』は、これまで経験されてきたことを基に話されたので、共感することも多く、実践に結びつきやすい講義であった。その中で「歴史も文化も師長で変わる」という言葉が印象的であった。これは、担当部署の運営に関して、現状維持に徹するか、時代の変化に敏感に反応し失敗を恐れずチャレンジして発展を遂げるかは、その部署の総括である看護師長の考え方で変わると言われているのだと認識した。部署の発展のためには、スタッフの意見に能動的に耳を傾け、否定せず、「できない」「ダメ」ではなく、「できる」にはどうしたら良いかを一緒に考えたり、考えさせたりする姿勢が大事であると学んだ。スタッフが、患者のために考える自由な発想を表出できる雰囲気作りをしていきたい。

原田先生による『勤務表作成のポイントと教育』では、看護師側の都合優先で勤務表を作成するのでなく、患者が安全に質の高い看護を担保できるシフトの組み合わせや人員確保も十分考えなくてはいけないということを学んだ。また、勤務表は、看護師の生活基準となるため、働き続けられるように公平性を考えながら、患者の安全も考慮して作成しなければならないと感じた。

今回の研修会で、担当部署のカラーになったり、スタッフの生活を握ったりと看護師長の役割の大きさを実感した。副看護師長として、スタッフ一人ひとりを把握しつつも、病棟全体のことを常に考え、管理調整していく看護師長のサポートをしていきたい。

研修会報告

平成25年度 病院看護補助者・介護職員研修会

平成25年12月5日(木)、山口県総合保健会館 第一研修室において、病院看護補助者・介護職員研修会が開催され、203名の参加があった。 研修会のテーマ・講師は以下のとおり。

【研修会】

テーマ 「超高齢社会を支えるキーパーソン」 ~介護職への期待~

講師 小野田赤十字病院 看護部長 伊藤泰枝 氏

テーマ 「慢性期医療における介護スタッフの専門性」 ~チームの一員としての役割~ 講 師 医療法人愛の会 光風園病院 看護統括部長 中尾郁子 氏

伊藤講師は、「日本の保健医療福祉を取り巻く環境の変化」、「看護補助者活用推進に向けた動き」について解説されたのち、「日本介護福祉会倫理綱領」に沿って、超高齢社会を支えるキーパーソンである介護職に期待することをわかりやすく講演された。

中尾講師は、「慢性期医療の変遷」、「慢性期医療の患者背景」、「慢性期医療の今後」について解説されたのち、「医療職と介護職の違い」、「介護職の専門性」、「介護職に求められるスキル」「チームの一員としての役割」について事例を上げながら講演された。

病院看護補助者及び介護職員を対象とした研修会の開催は、今回が初めてであったが、参加者は真剣に耳を傾けていた。



伊藤泰枝氏



中尾郁子氏



研修会風景



小野田赤十字病院 介護福祉士

豊田 純子

病院看護補助者・介護職員研修会に参加して

伊藤先生の「超高齢者を支えるキーパーソン」では保健医療福祉を取り巻く環境の変化を学びました。私も当病院に勤務して10年近くになりますが、入社当時に比べると患者様の重症化、高齢化、また認知症患者様の増加という現状があります。病棟でもかつてはほとんどが看護師だけの体制でしたが、現在は看護師、介護職、看護助手との協働となっています。介護職の役割として、患者様の身体的な状態把握だけではなく専門職としてケアをしていく中で内面的、精神的観察も側で行っていくこと、また何でも話せる相手としての役割も果たすことが重要だと思いました。何でも話せると言うことは、患者様、その家族の方々との信頼関係を築いて行くことが大切になります。介護職員は患者様の生活を支えて行くことやニーズを見つけ的確に解決していくことが大切です。ニーズの解決の際には介護職だけではなく、看護師、医師、リハビリとのチーム医療が重要となります。私自身も研修を受け身につ

けた知識を現場で活かし自らも行動に移して良いケアに繋げたいと思います。

中尾先生の「慢性期医療における介護スタッフの専門性」では、日々の介護の中で、患者様それぞれの今までの人生の生き様を把握し、理解して相手の立場に立ってケアをする事が重要だと再認識しました。現在の業務を1から変えていくことは難しいですが、私自身が行動に移せば周りのスタッフにも反映出来るのではないかと思い、現場で実践していこうと思います。今後、ケアを通じて患者様がその方らしい生活が送れるよう、ケアの充実を図り、介護職という専門性を活かしながら支援していきたいと思います。

平成25年度 臨時総会開催

平成25年度臨時総会が、平成25年11月8日(金)15:40から、山口グランドホテルで会員105名(委任状含む)の出席のもと開催された。

冒頭、木下毅会長から開会挨拶があり、次いで、議長(木下会長)及び議事録署名人(三浦副会長、神徳常任 理事)を選任した。

○議案第1号 定款全部改定について

議案第1号について、天津局長より、社団法人から一般社団法人への移行に伴い定款を変更する旨の説明があった。

採決の結果、議決決定し、臨時総会を閉会した。

諸会議報告

平成25年度 第2回理事会 (第4回常任理事会)

日 時 平成25年11月8日 (金) 15:40~17:10 開催場所 山口グランドホテル

【議決事項】

議案第1号 平成25年度第1回臨時総会の開催について 議案第2号 定款の全部改定について

【承認事項】

- 1. 平成25年度山口県病院協会収支予算執行状況につ
- 2. 平成25年度病院看護師長研修会の開催について
- 3. 平成25年度病院看護補助者・介護職員研修会の開催について
- 4. 第2回事務長部会研修会の開催について
- 5. 第10回山口市在宅緩和ケア市民公開講座後援依頼 について

【協議事項】

- 1. 四県病院協会連絡協議会に提出する議題について
- 2. 冬季医療経営講習会の開催について
- 3. 「やまぐち医療関連成長戦略推進協議会」会員募 集について

【報告事項】

- 1. 県行政委員の推薦について
 - ·山口県医療対策協議会委員 会 長 木下 毅 (再任)
 - ·山口県看護職員確保対策協議会委員 常任理事 佐栁 進(新任)
 - ·山口県医療対策協議会委員(社会医療法人) 尾中病院 尾中 宇蘭(再任)
- 2. 山口県選奨 保健衛生・環境功労賞受賞について
- 3. 一般社団法人への移行スケジュールについて

- 4. 山口県赤十字血液センター東部供給出張所の設置 について
- 5. 第9回医療関係団体新年互礼会について
- 6. YICビジネスアート専門学校学校関係者評価委員、 教育課程評価委員委嘱について
- 7. 県各種委員会等の報告 木下会長
 - ・第83回山口県医療審議会医療法人部会(10月29日) 福本理事
 - ·第1回山口県肝炎対策協議会(10月22日) 天津事務局長
 - ・「山口県における医療従事者の勤務環境の改善」 に関する企画委員会(10月8日)

平成25年度 第2回総務委員会

日 時 平成25年10月4日(金)15:00~16:30 開催場所 新山口ターミナルホテル

【協議事項】

- 1. 診療報酬改定に伴う要望事項の取りまとめについて
- 2. 山口県病院協会会員名簿の作成について

平成25年度 第3回情報管理委員会

日 時 平成25年12月17日 (火) 15:00~17:00 開催場所 新山口ターミナルホテル

【協議事項】

- 1. 新年号の発行について
- 2. 4月号の発行準備について

事務長部会コーナー

平成25年度 第2回事務長部会常任幹事会

日 時 平成25年11月8日(金)14:30~15:30

開催場所 山口グランドホテル

【協議事項】

- 1. 平成25年度第2回事務長部会研修会について
- 2. 支部会議の開催について

お知らせコーナー

平成25年山口県選奨受賞(山口県病院協会推薦)

山口県病院協会 副会長 小野田赤十字病院

病院長 水田英司 先生

教育や芸術、文化、スポーツの振興、産業や福祉などに功績があった 人をたたえる県選奨の表彰式が11月19日県庁で行われ、保健衛生・環境 功労部門において山口県病院協会副会長の水田先生が受賞されました。

水田先生は昭和47年山口大学医学部を卒業以来今日まで外科医として 一途に医療の道を歩んで来られました。



山口県庁にて、奥様と共に

平成8年からは小野田赤十字病院の病院長として赴任され、赤十字の エットーである。 数角医療に対して鋭音取り組まれ、よりわけ東口本士雲(())

モットーである、救急医療に対して鋭意取り組まれ、とりわけ東日本大震災時には、数次にわたり救護班を派遣するなど地域医療に加え、防災対策にも手腕を発揮されています。

当病院協会においては、平成8年に理事に就任後、平成13年には常任理事に、さらには、平成25年には副会長に就任し、協会会長のよき助言者として協会の諸事業に積極的に取り組まれており、今年度の県選奨受賞となりました。

心よりお祝い申し上げます。

病院協会の主な行事予定

○1月11日 医療関係団体新年互礼会 (会場:ホテルかめ福)

○1月17日 常任理事会 (会場:山口グランドホテル)

○1月24日 四県病院協会連絡協議会 (会場:山口グランドホテル)

○1月28日 県医師会・県病院協会懇談会 (会場:割烹ひさご)

○2月26日 第2回事務長部会研修会 (会場:新山口ターミナルホテル)

○2月28日 冬季医療経営講習会 (会場:ホテルニュータナカ)

○3月17日 病院医療事務担当職員研修会 (会場:山口県総合保健会館)

·平成26年度診療報酬改定説明会



編集後記

◆明けましておめでとうございます。いつも病院協会会報をご覧いただき有難うございます。 今年もさらに充実した内容で皆様にお届けしたいと思っております。よろしくお願い致します。

- ◆さて今年は診療報酬改定の年に当たり会員病院の皆様は戦々恐々とされていることと思います。12月20日の情報では4月からの消費税アップを補填する意味で0.1%のプラス改定で決着したそうです。雀の涙ほどですが、これもアベノミクスの効果といえるのでしょうか?◆一方、厚生労働省発表によると、日本の医師数が30万人を超えたようです。山口県は全国平均より多く20番目ぐらいです。しかし、あちらこちらで医師不足が深刻になっているのはどういうことでしょう?地域の偏在だけですまされる問題ではなさそうです。
- ◆今年は午年です。馬にあやかってスマートにこの1年を一気に駆け抜けたいところですが、障害が余りにも多くどんなレースになるやら。◆ともあれ皆様良いお年をお迎え下さい。 (水田 英司)